

*** 塔望遠鏡の湿気取り、驚くばかりの効果、そして住民たち**

塔望遠鏡、通称アインシュタイン塔と言った方が通じやすくなって、実際に塔望遠鏡で働いていたものは、通称「タワー」と呼び、アインシュタイン塔と呼ぶのは名称詐称であると言ってきたが、話は通じやすい方がいいので最近はめげてきている。さて、塔望遠鏡は昨年末に雨漏りのひどかったドームの屋根を葺き替え、昨年度末には電力を回復させた。そして大々的な大掃除、整理を行い、2010年6月4日には台内公開をした。

塔望遠鏡の分光室は大正15年(1926年)、塔部分は昭和5年(1930年)に建てられた築80年以上の古い建物である。空調設備のなかった時代、温度変化の少ない半地下構造にしたため、建設当時から湿気に悩まされ続けていた。その事情は今でも同じである。これから有効利用を考える建物だから、まだ空調設備はない。しかし、今は梅雨の真っ最中である。電力が回復したのを機に5台の除湿機をフル稼働させ、日産30~40リットルの水を生産して除湿している。これで半地下部分、塔部分の湿気はほとんど感じなくなった。しかし、分光室から外に向かって東側に階段があり、その空間は鉄扉1枚で外気に接している。6月初めまでは気にならなかったのだが、梅雨に入り、この東に向かった階段の壁、天井に結露し、その水は階段に滴り落ちるようになり、また赤外線センサー辺りもビジョビジョになるようになった(写真1)。

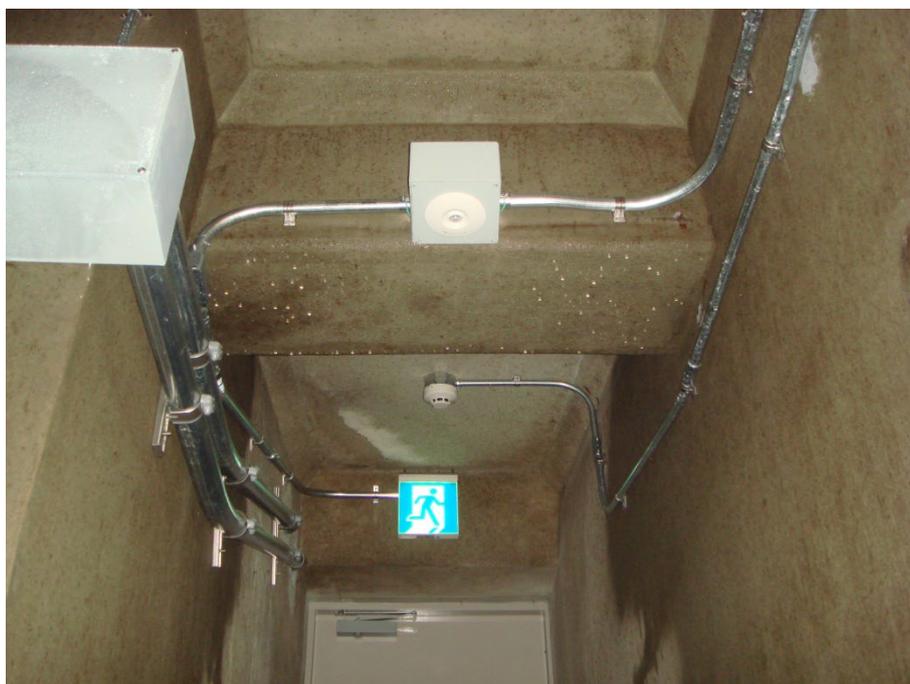


写真1 結露のひどい階段天井部

そこでこの空間にも除湿機を1台投入した。除湿機1台を投入し、一晩明けて朝、現場に出かけてみる、それは夢のようであった。水滴は1滴もなく乾燥しているのである。文明の利器とはすばらしい。驚くばかりの成果である（写真2）。



写真2 水滴がきれいに消えた階段空間

電力は回復させたが、水道の回復がまだである。除湿機で生産する毎日30~40リットルの水は有効に掃除に使っている。このところは床のモップを使った掃除を朝夕に行っており、ずいぶんきれいになった。

湿気のなくなった分光室にヤモリ（写真3）、ムカデが生息している。



写真3 やもり



写真4 むかで

その他にも塔望遠鏡には住民たちがいる。ドームの隙間から入り込んだキリギリスはかわいそうな姿になる（写真5）。写真6の「ななふし」もいずれこうなる！



写真5 息絶えたキリギリス



写真6 ななふし

そして嫌な住民もいる(写真7)、「げじげじ」である。



写真7 げじげじ